

◇ 令和6年10月29日(火)  
 ◇ 9:30 ~ 12:45  
 ◇ 東郷小学校 会議室

授業参観 9:45~10:30

給食試食あり



## ◇ 学校運営の状況報告 大山 浩司 校長

- ・学校目標の「思い描く学校を共に創り上げる子ども」に関わっては、前回の協議会でも説明したとおり、子どもたちには「主体的に」と「共に」の2つのキーワードで話をしている。低学年には理解することが難しいので、「主体的に」については「自分から頑張ること」と話し、「共に」は、「みんなで頑張ること」として話をしている。
- ・朝の登校風景の写真を見てほしい。押しボタン式信号機で止まってくれた車の運転手さんに挨拶しなさいと言ったわけではないのにしっかり会釈をしている。見ていると上級生の登校班の班長が率先して、自分から挨拶をし、みんなで行っている。
- ・2年生の児童が進んで水道の流しの清掃をしてくれている写真を見てほしい。汚れていて嫌だと思ふ気持ちが先立つ年頃なのに、頼んだわけではないのに行ってくれた。
- ・2学期から雑巾がけの清掃をするようにした。以前は、モップ上の棒に雑巾をつけての清掃だった。子どもたちに聞くと嫌がってはいないようだ。自分から進んでやる気持ちが育っている。
- ・6年生の児童が、雨の日で濡れた昇降口をモップ掛けしてくれている。また、様々な学年が外遊びや体育で汚れた昇降口を掃除してくれている。これも「自分から」の現れだと感じる。
- ・「歌声(音楽)朝会」担当する教員が、リコーダーを吹いてくれる児童を募ったところ学年の異なる児童が引き受けてくれた。これもよいことだと感じている。やれと言われてやるのではなく進んで自分からやるということを大事にしていきたい。
- ・「業間マラソン」といって、休み時間にグラウンドで音楽が流れている間、全児童で走る時間がある。音楽が終わっても走り続ける児童がいる。これも自分から進んでやることの現れでよいと感じている。
- ・「みんなで」ということでは、休み時間の過ごし方をみると、6年生が男女一緒にドッジボールをやるなど、学年枠をこえて遊んだりする様子が喜ばしい。「みんなで頑張る」の土台ができている。
- ・学校が場を設定している縦割りでの時間でも、高学年がリードし内容を決めて行っている。
- ・9月から全校でのランチルーム給食を実施している。はじめは2学年単位で実施した。今は、縦割り班での実施に移行している。和やかな雰囲気を感じる。ランチルーム給食の再開でも「みんなで」を意識させていきたい。

- ・東郷祭では、「自分から頑張る」「みんなで頑張る」の両面がみられた。3年生は劇で使う小道具を作り、高学年は台本を自分たちで作る様子が見られた。5年生は、監督役がいて、アドバイスをしながら自分たちで創った行事となった。
- ・高学年になると、発表の様子をビデオに写しながら、自分たちで課題を見つけながらよりよい発表になるように取り組んでいた。
- ・東郷祭の前日準備では、高学年が委員会単位で一生懸命働いてくれた。保護者席を一つ一つ拭き、きれいにする様子もあった。
- ・子どもたちには、「自分から頑張る」「みんなで頑張る」行為を伝えていきたい。また、保護者や地域の方にも子どもたちの頑張りを伝えていきたい。校長講話や様々な式の間、会議の間を活用し、学校便りにも分かりやすい読みやすい言葉で「ちょっとうれしい素敵な話」として発信している。担任団も学級便りで同じく子どもの頑張りを伝えてくれている。
- ・よいことだけでなく課題についてもしっかり考えさせている。「時間やきまりを守る」ことを課題にしている。たとえば、外遊びの時間を忘れて遊んでいたり、廊下を走ったりということがある。「はじめを大切に」ということで子どもたちに考えさせながら指導している。
- ・「はじめ」については、子どもの思いや保護者の方の心配に寄り添いながら丁寧に対応し、子どもたち一人一人を保護者の方と一緒に育てていきたいと考えている。

#### ◇ 学校運営状況の報告に対する質疑応答 各委員から

- 「自分から」の取り組みの様子を聞いたが、教師側からの働きかけはなかったのか。  
→リコーダーの発表だけは教師側から働きかけはあった。その他は子どもたちからの主体的な取り組みで教師の働きかけはない。教師側は、子どもの主体的な取り組みを見逃さないようにしなければならない。
- 子どものやりすぎなどで逆に止めたりするようなことはなかったか。  
→なんでもかんでも自主的にとはいかない。教師サイドも同じ方向を向きながらも、ここは、子どもに任せる、ここは教員がリードする、という共通理解が必要だ。
- 学校での様子を聞いていて自主的に考え行動する子を多く認めていただきありがたい。自分の子どもを見ていると、学校では周りの子がいるので一緒になってできるのだろうが、家に帰ってから何をしたらよいか分からないようだ。自分が子どもの頃は、周囲に多くの子がいて遊ぶことができていたがそれも今はない。
- 今は外遊びでもゲームをしている子が見られるように、体を動かして遊ぶこと、自分たちで遊びを考えるような経験が乏しい。それで何をしたらよいか分からない子も多い。我々の常識からは「そんなことは自分で考えたらいい」と思うことでも今の子は経験がないことはなかなかやれない。遊び方も意識的に提供してやらないとできない。



○子どもの数が減って遊び場（地域の公園）や遊具などの手入れが行われていない。子どもが遊びたくなるような工夫が必要。以前のような球技などは、人数が減ってやれない。オンラインゲームはどんどんつながりが広まり、子どもの関心は高いが、危険性もあり心配される。



○授業参観をして感じたことは、子どもたちが本当に楽しく授業を受けていたことだった。今の子どもたちは声も大きい。私たちの子どもの時は授業中の声も小さかった。先生とのつながりが良好なのだろうと感じた。

○夏休みのラジオ体操を育成会が行っているが、親たちは勤めもあって忙しい。期間も以前に比べると短くなっている。町内会での行事も以前に比べれば減少している。子どもたちにとっては地域の人とのかかわる機会や、何より、幼い時に地域で楽しかったという思い出ができない。親たちだけでやろうとせずに、参加できる地域の方をお願いすることも大切だ。それが地域で子どもたちが育つということにつながる。そういう機会を大人が多く作ってやるのが大事だと感じる。

○コロナ禍以降、世の中がすべて簡素化に走っている。人と人とのつながりも同様に委縮傾向にある。今だから再認識して意識を高めていかないと、アフターコロナの影響が子どもへ少なからず出てくる。

○町民運動会の反省会がなければ親同士の関りも深まらない。以前は、町民運動会や歓送迎会などを通して学校と地域との関係が深まっていた。時代の流れとして、負担を増やすことには大きな抵抗があり難しい時期にきている。

○町の取り組みも高齢者向けの百歳体操や高齢者サロンなどが手厚い気がする。子ども向けの事業も今後支援する必要もある。

## ◇ 熟議テーマ「地域（ふるさと）へ思いを寄せる子どもの育成」について

◇子どもたちの地域に関わる意識調査を行った。（現6年生）

・「あなたは、地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか？」

何かしたいと思っている 50%    どちらかといえばそう思う 35%

あまりそう思わない 15%    まったくそう思わない 0%

・「どんなことをしてみたいのか？」（人数）

ゴミ拾い（きれいな町に） 9    イベント 2    郷土料理を食べて知りたい

安心な町にしたい    あいさつをたくさんしたい    ボランティアしたい

・「三川町のよさは、どんなところだと思いますか？」

産業（農業・工業など） 54%    自然 35%    地域住民 8%    その他 4%

・「ふるさと（三川）のよさをどう思っているか？」

米がおいしい    みんなやさしくあいさつをしてくれる    田や畑をいかした産業

自慢のケヤキや青山神社のハルニレ    給食（菜の花ご飯など）

東郷小の凧揚げ    枝豆の生産    商業施設

- ◇社会科副読本を見てもらって、今の子どもが学んでいる地域学習のことを知ってください。
- 子どもが育つ環境を作ることが学校運営協議会のねらいでもあり、学校での学びをどう家庭で支えていけるかが大事なこと。学校では地域学習を丁寧に教えてくれている。
- 自分も知らないことが多かった。「わたしたちの三川町」(副読本)を親も目を通すことが大切。
- 以前からこの副読本のようなものはあった。家庭で子どもと一緒に見る機会があれば、より地域を知ることにつながる。